

風土記の丘の花だより³³⁸

今、そしてこれから見られる植物(2026年9月12日)

久しぶりに、たくさんの雨が降ってくれました。ダラ〜ンとしていたフジバカマの葉がシャキッとしました。新池も満水状態に戻りました。ギンヤンマは嬉しくなったのか、盛んに産卵しています。セミの声は少なくなり、草むらからコオロギやツユムシの鳴き声が聞こえてきます。



白くて丸くて毛深くて、上手に名付けられたこの花はネコハギです。ハギというと、花が赤紫色で、人の背丈ほども成長するというイメージがありますが、これはとても小さくて、地面に張り付くように生え広がります。ですから、珍しい植物ではありませんが、よほど注意して探さないと見つかりません。この写真は、旧小早川家住宅から旧谷村家住宅に上る階段の近くで撮りましたが、よく探せばあちこちで見つかるはずです。かわいい白い花をぜひ探してみてください。



ガマズミの実が色づき始めました。初夏に白い花を咲かせ、たくさんの虫を集めていましたが、その虫たちのおかげで受粉でき、実を結び、その実が赤く色づいてきたのです。季節の移ろいを感じます。この実は酸っぱいですが、食べられます。熟した頃に、いかがでしょう。これから野山は赤や黄色に色づく植物で彩られてくるので楽しみです。それにしてもガマズミとは変わった名前ですね。語源を調べましたが、定説はないようです。



実が続きます。このヘンテコな実はケンポナシ。名前までヘンテコですね。緑色で丸いのが実ですが、グニャグニャした軸の部分が甘くておいしいのです。この木はずっと以前にどなたかからいただいて、ハクモクレンなどが植わっている広場に植樹したと聞いています。入って左側にある10メートルほどの高さの大きい木です。まだ、おいしくないと思いますが、葉が落ちる頃、枝に残った実を試食してみたいかがですか。食感はシャリシャリしていて、ナシみたいで、少なくともガマズミよりはおいしいですよ。



アキノノゲシが咲き始めました。春に咲くハルノノゲシ(またはノゲシ)の鮮やかな黄色とは違って、儚い黄色というか、淡い黄色というか、優しい黄色ですね。ところで話は変わりますが、山菜の「山くらげ」をご存知でしょうか？それは中国原産のこの仲間の植物の茎の皮を加工したものだそうです。ずっと前、自称「山菜の達人」に「山くらげはアキノノゲシの皮から作るんや!」と聞いたことがあります。本当かどうか知りませんが、ふとそんなことを思い出しました。松下